

アグリカレッジ福島

福島県農業総合センター農業短期大学校

令和7年度長期就農研修

NEWSLETTER (12・1月合併号)

12・1月の研修生の「声」及び令和8年4月就農に向けた
各研修生の準備状況を報告します！

～研修生奮闘記～



ハウス内の片づけ作業（写真：I氏）

（研修状況）

・ミニトマトは加温なしで2月末まで栽培予定であったが、収量や品質が確保できず、自身の人件費等も考慮すると、片づけて違う作物を栽培したほうが賢明だと判断した。

（就農に向けた準備状況）

・中古でハウスを導入する予定であったが、ハウスの解体費用と運賃、再度の組み立て費用の総額は、新品でハウスを購入・組み立てる費用とほぼ同額であることがわかった。この経験からまずは見積りをとることの重要性を学んだ。
・作業場兼住宅のリフォームはほぼ完了し、1月のうちに引越ができる見込み。

（もっと早めにやっておけばよかったこと、残り3か月でやるべきことなど）

・冬に何を栽培すべきか、もっと早めに考えておけばよかった。
・4月以降はミニトマトがメインの就農計画のため、ハウスを建てる場所の整地作業やミニトマトに係る必要な資材の調達、引越作業などやるべきことが多いが、体調に留意しながら1つ1つやっていきたい。

(研修状況)

- ・トラクタ操作技術向上やドローン資格取得促進特別研修、アグリビジネススクール、郡山農業塾などに参加した。
- ・トラクタ操作技術向上では、実際に自宅のほ場を耕うんした後での研修となったことから、より深く学ぶことができた。
- ・アグリビジネススクールや郡山農業塾では農業簿記や経営について学んでいるが、仕訳が難しく苦戦している。



トラクタ操作技術向上に参加
(写真奥左：大河原幸枝氏)

(就農に向けた準備状況)

- ・就農計画は水稻がメインのため、猛暑に強い水稻品種の導入や農短大で学んだプール育苗に取り組む予定。密苗にも挑戦したい。研修中に取り組んだ販路の多角化にも引き続き取り組んでいきたい。
- ・スマート農業関係は、まずは RTK を契約し、自動操舵システムを田植え機械に後付けする予定。また、ザルビオや KSAS システムを導入し、可変施肥にも挑戦する。なお、ドローンについてはまずはオペレーターのライセンスを年度内に取得し、本体の導入は令和 9 年度を目指す予定。



ハクサイかん水作業 (写真：O 氏)

(研修状況)

- ・ミニダイコンのは種作業や間引き作業は、奥が深いことが分かった。は種作業では発芽を均一にさせるための水分管理の難しさ、間引き作業ではタイミングが遅くなってしまう、適期作業の重要性を再認識した。

(就農に向けた準備状況)

- ・労働力を確保するため、知人に声をかけている。

（研修状況）

- ・山形県天童市に本社を置き、会社設立から9年目で年商5億円を超えたネギの法人を視察した。ネギのは種～育苗のポイントを学び、自身のネギのは種～育苗にも活かしたつもりだったが、自身のネギの発芽は不均一となり、改めて育苗の難しさを痛感した。
- ・須賀川農業普及所や県中農林事務所が主催しているセミナーにも参加。



研修状況報告会にて
（写真右：渡部佑樹氏）

（就農に向けた準備状況）

- ・須賀川市役所で認定農業者の申請を行い、早ければ令和7年度内に認定される予定。もっと早めに着手できれば良かった。
- ・農地全体は170a程度あり、内訳はきゅうり10a、白ナス20a、ネギ110aなど。
- ・販路はJAや市場、飲食店の他、東京等も検討。
- ・労働力の確保に苦戦している。



サトイモ収穫作業（写真：佐々木寛史氏）

（研修状況）

- ・ダイズやサトイモの収穫作業を行った。ダイズは手刈りでの収穫作業となったが、自分が想像したスピードでの作業はできていない。サトイモは直売所へ出荷したが、ほとんどが売れない状況。原因は明白で、需要と供給のバランス。次年度は自家消費用に少量のみ栽培か、作付けしないことも検討したい。

（就農に向けた準備状況）

- ・30a程度の農地を借用する約束があるが、手続きは進めていない。
- ・トマトやネギで就農する予定であったが、トマト用のハウスやネギの育苗ハウスが用意できる目途が立たなかったため、露地きゅうりやナス等を作付けする計画。